

## 植調協会だより

### ◎ 会議開催日程のお知らせ

- ・昭和52年度秋冬作芝生関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日 時； 昭和53年6月20日(火),12:00~17:00  
21日(水), 9:00~12:00

場 所； にのみやカントリークラブ  
栃木県芳賀郡二宮町三谷  
(TEL 02857-5-0121)

- ・昭和52年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会, 現地研究会

日 時； 昭和53年7月3日(月)  
現地研究会 9:30~12:00  
成績検討会 13:00~17:00

7月4日(火)

成績検討会 9:30~17:00

場 所； のうが高原ホテル  
広島県佐伯郡廿日市町上平良字大迫44-9(TEL 0829-38-1121)

### ◎ 第35回役員会開催す

昭和52年5月23日(火), 三井東圧化学10階大会議室(東京都千代田区霞ヶ関3-2-5)において開催し, 次の議題につき審議の上可決された。

1. 寄付行為一部改正の件.
2. 役員人事の件.
3. 昭和52年度事業および収支決算報告承認の件.
4. 昭和52年度剰余金処分(案)の件.
5. 昭和53年度事業計画および予算(案)承認の件.
6. 諸規程一部改正(案)承認の件.

7. 諸規程の退職慰労金規程第13条に掲げる「退職年金細則」の追認について.

以上につき審議し可決したが, 次にその概要をのべる。

#### 1. 寄付行為一部改正の件

寄付行為第12条に理事の定数を「20名以上28名以内」と定めているが, (財)残留農業研究所等関係諸団体との連携を密にする必要性があり, 相互に理事となるために理事定数を2名増し, 「20名以上30名以内」と改めることについて承認を得た。

#### 2. 役員人事の件

篠田秀臣理事(三井東圧化学)が退任し, 大池峯一氏(三井東圧化学), 丸山篤氏(北陸支部長)が理事に就任した。なお, 寄付行為第12条の変更が主務官庁より認可され, 理事定数の増加が認められた場合, 石倉秀次氏(残留農業研究所)が理事となることにつき, 全理事より同意を得た。

#### 3. 昭和52年度事業および収支決算報告承認の件

(A) 昭和52年度事業報告について.

##### (1) 特別試験研究関係

① 除草剤節減技術検索に関する研究は, 3年目であり, 当年度で終結した。薬量の減量は $\frac{1}{6}$ 程度で, 4~5日程度の早期散布(雑草幼令期をねらう)が必要であることがわかった。

② 雑草葉令による除草剤耐性の解析に関する研究は, 初年目であり, 農林省農林水産特別研究費補助金の交付を受けて実施した。

##### (2) 特別研究関係

① 水田除草体系は正に関する研究は, 寒地~寒冷地における除草体系について種々の試験研究を行ない, 処理回数を減じ, 多量散布を是正することにあり, 当年度は20種の混合剤につい

て4場所で実施した。

② 背負式動力散布機による水田除草剤散布技術開発に関する研究は、初年目であるが、散布の均一性を高めるため、散布機械の性能向上と散布法につき、さらに研究を進める必要がある。

(3) 受託・委託試験関係

昭和51年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験受託点数は272.5点(56薬剤)、昭和52年度春夏作関係は1,981.5点(360薬剤)、計2,254点(416薬剤)であった。その試験結果は、昭和51年度冬作関係では56薬剤中、実用化5薬剤、実・継23薬剤、継26薬剤、継?1薬剤、保留1薬剤であった。昭和52年度夏作関係では360薬剤中、実用化52薬剤、実・継147薬剤、継130薬剤、継?16薬剤、中止15薬剤であった。

昭和52年度夏作関係委託展示圃の供試点数は、水稻887点、畑作9点、麦作3点、野菜・花き75点、計974点であった。

昭和52年度農薬残留量分析関係受託件数は、作物残留量分析が68件、土壌残留量分析が24件であった。

(B) 昭和52年度収支決算報告について

(1) 一般会計

収	入	539,462,851円
支	出	500,267,678
	末処分剰余金	34,616,250

(2) 特別試験研究会計

① 除草剤節減技術検索委託事業

収	入	5,162,282円
支	出	5,162,282
差	引	0

② 雑草葉令による除草剤耐性の解析に関する研究

収	入	2,012,538円
支	出	2,012,538

差 引 0

4. 昭和52年度剰余金処分案の件

末処分剰余金	39,616,250円
次年度繰越金	5,000,000
協会整備勘定へ繰入	34,616,250

5. 昭和53年度事業計画および予算(案承認)の件

(A) 昭和53年度事業計画について

【事務局】

(1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究

① 除草剤の水産動植物に対する安全使用に関する調査研究……昭和52年11月29日水産動植物毒性委員会を組織し、スタートしたが、当年度はモリネート、ベンチオカーブ、ブタクロール、ピペロホス・ジメタメトリンの4薬剤について、8場所で水系調査を実施することになった。

② 強還元田下生ワラ多量施用と除草剤の安全使用に関する調査研究……当年度は、オキサジアゾン、CNP、クロメトキシニル、ダイムロン、ダイムロン・CNP、ベンチオカーブ、ベンチオカーブ→ベンチオカーブ・シメトリン・MCPB、ブタクロール、シメトリン、MS-8の10薬剤について、6場所で試験することになった。

③ 転換畑(大豆・麦)用除草剤の開発利用研究……当年度はCG-119、アラクロール、ベンチオカーブ・プロメトリン、DCMU、S-28、SAP・プロメトリン、アロキシジメドン、SL-501、RH-62、NIPの10薬剤について、8場所で試験することになった。

以上は、新しく共同研究課題とし取り上げられたものである。

- ④ 除草剤の永年使用による土壌・作物、微生物に及ぼす影響に関する調査研究。
  - ⑤ 水田除草剤体系是正に関する研究。
  - ⑥ 多年生雑草（非農耕地）用除草剤開発利用研究。
  - ⑦ 背負式動力散粒機による少量散布技術の確立研究。
  - ⑧ 除草剤の薬害の原因究明に関する調査研究。
- (2) 植物調節剤試験の受託・委託  
春夏作および秋冬作関係除草剤・生育調節剤試験の受託・委託，展示圃試験の受託・委託，作物および土壌残留量分析の受託・委託。
- (3) 植物調節剤の試験成績検討会の開催
- (4) 植物調節剤に関する試験成績書の印刷
- (5) 研究成果の研究，普及，行政部局に対する説明会の開催
- (6) 植物調節剤に関する研究会・講習会の開催

【研究所】

- (1) 植物調節剤の開発利用調査研究  
〔除草剤関係〕 雑草の生態系と薬剤耐性に関する研究，雑草の幼令による薬剤耐性に関する研究，除草剤の解毒剤の利用開発に関する研究，除草剤に対する作物品種間差異に関する研究，除草剤の相剋作用に関する生理的研究，除草剤魚類被害防止技術の確立に関する研究，魚貝類に対する除草剤作用の生理的研究，水田施用除草剤による野菜畑の薬害解析研究，除草剤体系是正に関する開発研究。  
〔生育調節剤関係〕 生育調節剤の作用性に関する研究，生育調節剤の検定方法の簡易化に関する研究，生育調節剤の有効成分の

検索に関する研究。

(2) 植物調節剤の受託試験

除草剤基礎試験（沖縄県名護），新除草剤作用特性試験，新除草剤適用性判定試験，生育調節剤適用性判定試験，生ワラ施用田での除草剤安全使用法試験，除草剤の永年使用に関する研究，生育調節剤資材の開発に関する研究，魚毒性検定試験，新除草剤開発の方向性に関する研究。

(3) 研修生の受入れ

(B) 昭和53年度収支予算について

1) 一般会計

(1) 収入の部

受託試験費収入	515,700,000円
研究会収入	2,110,000
評議員会費	13,100,000
受取利息	6,000,000
雑収入	800,000
受託調査収入	2,880,000
寄付金	500,000
不動産処分収入	454,000
前期繰越金	5,000,000
計	56,553,600

(2) 支出の部

委託試験費	29,213,300
研究会支出	1,369,000
委託調査旅費	7,300,000
事務局費	11,107,000
研究所費	7,877,000
植調支部経費	1,327,000
退職年金	2,000,000
植調補填金	7,000,000
償却資産修繕	1,500,000
支払利息	1,000,000
研究資質向上費	2,500,000

協会整備勘定振替	30,303,000円
予備費	5,000,000
計	56,553,600

2) 協会整備勘定(固定資産購入特別会計)

事務局用土地の購入ならびに建物の建設について230,000,000円、研究所用試験圃場の購入について30,000,000円、計260,000,000円となる。その資金調達方法として、昭和53年4月1日現在、準備金として84,440,819円、昭和52年度剰余金より34,195,173円、昭和53年度一般会計より繰り入れ額30,303,000円、差入保証金戻し入れ9,040,000円とすると102,021,008円不足となり、銀行より50,000,000円借入れ、他の不足額は過年度未払金を流用するということで承認を得た。

3) 公益特別試験会計

(1) 雑草の葉令による除草剤の耐性に関する研究費補助金(農林省農林水産技術会議事務局補助金)

収入の部	2,000,000円
支出の部	2,000,000

(2) 除草剤魚類被害防止技術確立委託費(農林省農蚕園芸局委託費)

収入の部	5,278,000円
支出の部	5,278,000

6. 諸規程の一部改正(案)承認の件

(1) 組織・事務分掌および職制に関する規則

研究室長、研究所職員につき命令系統を明確にするための規程を追補した。

(2) 経理規程

重要書類等の保管につき、金融機関の貸金庫に保管できるように改めた。また、公益委託試験会計を公益特別試験会計に改めた。

(3) 就業規則

年次休暇の繰越しに問題があるので、原則として繰越しは認めないが、病欠休暇等により長期病欠となった場合などに限り調整することができるように改めた。

(4) 退職慰労金規程

職員という表現が不正確であるので、常勤の役・職員に改めた。また、20年以上の長年勤続者に対する割増退職金の計算年数を、11→10、21→20、31→30年というように改めた。

7. 諸規程の退職慰労金規程第13条に掲げる「退職年金細則」の追認について

昭和51年12月21日開催の第32回役員会で承認された「退職慰労金規程第13条」に掲げる「退職年金細則」を設けたので、議案として提出、承認を得た。

なお、以上の議案につき承認を受けてから、事務局用土地・建物購入についての中間報告、水産動植物毒性試験の経過報告を行ない、第35回役員会を無事終了した。

## Weed List in Asian-Pacific Area

企画・編集／(財)日本植物調節剤研究協会 発行／植調編集印刷事務所  
A4判 80頁 定価2,000円(送料別)

雑草の各国における呼称を、学名と対照した雑草名彙。

Japanese name, English name, Hawaiian name, Indonesian name (Indonesian, Sundanese, Javanese), Chinese name, Taiwanese name, Korean name, Russian name, Canadian nameを収録。

## 気長に抑草、気楽に造林

＊宿根性イネ科・カヤツリグサ科雑草防除に

**フレノック** 粒剤  
液剤

＊クズの抑制枯殺に

**クズノック** 微粒剤

## 三共の水田除草剤

＊水田初期除草剤

三共 <sup>エム</sup> <sup>オー</sup> **MO** 粒剤-9

＊水田一般雑草に

三共 **マーシエット** 粒剤5



**三共株式会社**

農薬部 東京都中央区銀座3-10-17  
支店 仙台・名古屋・大阪・広島・高松

北海三共株式会社  
九州三共株式会社

資料進呈

### 編集後記

梅雨期を迎えたものゝ、北九州では早魃が続  
き、貯水池は干あがり、一般家庭では断水とい  
う非常事態となった。しかし、梅雨前線が近づ  
くにつれ、今度は一転して大雨となり、洪水と  
いう皮肉な現象に見舞われた。

このような異常気象は、今にはじまったこと  
ではない。1 去年はチャンドラモーションの影響から北日本は冷夏となり、水稲は低温のため  
に不稔や登熟不良などがみられ、収量は大幅に  
減少した。幸か不幸か、食生活の偏向から米は  
過剰傾向にあるため、都会で生活する者に強い  
関心は抱かれなかったが、不作に悩む農民にと  
っては、死活の問題であった。このような窮地に追  
いこまれた農民の願いは、低温条件下でも影響をあ  
まり受けない品種の育成と栽培技術の向上であろ  
う。農業技術者や研究者は、このような農民の願

いをしっかりと受けとめ、彼等の期待にそい  
うる栽培技術を確立してゆかなければならない。

冷害に悩む農民の姿を眼に描き、彼等の願  
いを成就させるためには、名誉にとらわれた研究  
に月日を費やすことなく、農民の立場に立って  
地についた研究をすべきではないだろうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会  
東京都港区虎ノ門一丁目17番1号  
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和53年6月発行

植調第12巻第3号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人  
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区愛宕1-2-2 全国農村教育協会内  
発行所 植調編集印刷事務所  
電話 東京(03)436-3388番